

令和7年度

高浦中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○授業目標の明確化と問題解決過程の重視
○GIGAスクール構想の積極的活用によるICTを利用した授業展開
○「家庭学習の手引き」・「自主学習ノート」・「タブレットドリル」を活用した家庭学習の充実

校長

小林 積

学力向上推進員

武知 直子

【各校の取組状況の把握について】

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

授業公開や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な内容が定着している生徒が多い。落ち着いて授業に臨み、与えられた課題に対しては意欲的に取り組むことができる。 ●定着が十分でない生徒は、読解力が弱く、記述問題も弱い。	・基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につける。 ・習得した知識を、既習の知識と関連づけ、他の学習の場面で活用することができる。	・T.T.指導を展開し、定着が不十分な生徒の個別指導を充実させる。 ・基本的な内容が復習できるプリント・ワーク等を課題とし、小テストを随時行う。 ・活動ごとや単元ごとに、ノート等の内容を確認する。 ・“MetaMoji”でプリントを配布したりタブレットドリルを活用したりして、反復学習を行う。	基礎的・基本的な知識・技能の習得は徐々に図られている。今後も、学習内容が復習できる課題や小テストを継続して行っていく。また、個々の状況に合わせ、個別指導も充実させる。タブレットの入れ替え等があり、教員自身が使いこなせる技能習得を図る。	・T.T.指導での声掛けにより、つまづいている生徒への個別フォローがスムーズにでき、基礎の定着を図った。 ・教科において、基本的な内容を復習できるワークや“タブレットドリル”の問題を課題とし、確認の小テストを実施した。 ・小テストの点数は安定してきたが、長い問題文になるとつまづく生徒がまだ見受けられる。	・教科によっては生徒間の学力差が大きいため、引き続き苦手意識のある生徒に対して個別指導を充実させる。 ・記述問題に慣れさせるため、まずは短いキーワードから書かせる練習を、各教科で少しずつ増やしていく。 ・T.T.指導のあり方やタブレットのさらなる効果的な活用方法など、教員の研修を行い各教科で工夫改善を続けていく。

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○表現活動を楽しみ、自分なりに工夫する生徒が多い。 ●単純な問いに対しては積極的に発言できるが、根拠を明らかにして筋道立てて説明することが苦手である。	・課題解決に至る過程を表現することができる。 ・さまざまな事象を関連づけたり、学習した内容を組み合わせで考えを深めたりすることができる。	・授業の目標を明確にするとともに、授業の流れが分かる板書・ワークシートを工夫する。 ・ペア学習、班活動を取り入れた活動をさせる。 ・アウトプットの場面を多く設定するとともに、タブレットを効果的に活用し、一人一人が意見や考えを表現できる質問を作る。 ・様々な体験活動を通して表現力を高める。 ・文章から重要な部分を見つけ出し、その根拠を書かせることで情報を正確に捉える力を高める。	根拠となることがらを的確に記述したり、討論することに苦手意識をもつ生徒が多い。今後も引き続き、グループやペアでの活動を積極的に取り入れ、自分の意見を発表しやすい雰囲気づくりをめざす。阿波つ子タイムズの活用し、新聞書き写しを行ったり、気になった情報について話し合ったりして、表現力を養う。	・各教科において、ペア学習や班活動を積極的に取り入れ、アウトプットの場面を多く設定することができ、生徒が活発に意見交換を行った。 ・授業の最初に、本時の目標や流れを提示することで、授業の流れを理解して進められる生徒が増えた。	・各教科において、生徒が表現する機会をさらに増やし、自分の意見を整理し分かりやすく伝える練習をさせる。 ・ペア学習の質を上げるために、自分の考えを伝えることや相手の意見に対して「質問」や「付け足し」ができる声掛けを徹底する。 ・各教科において、ステップアップテストや学力学習状況調査から課題を分析し、その改善に向けての取り組みを続けていく。

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○課題等の提出率は高い。また、定期テスト前の学習にも、多くの生徒が目標を掲げ、意欲的に取り組んでいる。 ●自ら課題を見つけて学習に取り組むことが苦手な生徒がいる。	・「家庭学習の手引き」を活用し、授業で学んだことを自分のものとするために必要な家庭学習ができる。 ・ある事象に対して疑問を抱き、その疑問に対して、自ら調べることができる。	・学期ごとに家庭学習充実月間を設け、「自主学習コンテスト」を行い、家庭学習の質の充実を図る。 ・休日にタブレットを持ち帰り、“タブレットドリル”を用いて自らの理解度に応じた問題を選択して取り組ませる。	・自主学習コンテストの中から、優秀な作品を掲示することで、自分の学習を振り返らせ、主体的に課題を追究しようとする態度につなげる。 ・タブレットの入れ替えがあり、積極的な持ち帰りはできていないが、授業で活用する場面を増やす。	・各教科の課題や自主学習ノートを、ほとんどの生徒が提出できた。 ・「自主学習コンテスト」を通し、友達のノートを参考に工夫して取り組もうとする姿が見られた。 ・家庭学習の提出率は良いが、出された課題をこなすだけになりがちである。 ・課題をこなすことはできているが、自ら疑問を見つける探究的な姿勢には個人差が見られる。	・「家庭学習の手引き」の内容を見直し、習熟度に合わせた具体的な自学の例をもっと提示していく。 ・タブレットドリルを含めて、自分の理解度や弱点に応じて学習内容を選択して取り組める機会を増やす。 ・Web検索や動画活用など、自ら学ぶためのツールの使い方をさらに指導していく。